



CHAPTER 2

CDP の設定

この章では、Cisco Discovery Protocol (CDP) の設定方法について、次の内容を説明します。

- 「CDP の概要」 (P.2-1)
- 「注意事項および制約事項」 (P.2-2)
- 「デフォルト」 (P.2-2)
- 「CDP の設定」 (P.2-3)
- 「CDP のモニタリング」 (P.2-10)
- 「CDP コンフィギュレーションの確認」 (P.2-10)
- 「CDP の設定例」 (P.2-14)
- 「その他の関連資料」 (P.2-14)

CDP の概要

Cisco Discovery Protocol (CDP) は、データ リンク層の上で動作し、接続されているすべてのシスコデバイスに情報をアドバタイズし、接続されているシスコ製デバイスに関する情報を検出および表示するために使用されます。CDP は、シスコ製のすべての機器で動作します。

CDP はネイバー デバイスのプロトコルアドレスを収集し、各デバイスのプラットフォームを検出します。CDP の動作はデータ リンク レイヤ上に限定されます。異なるレイヤ 3 プロトコルをサポートする 2 つのシステムで相互学習が可能です。

CDP が設定された各デバイスは、マルチキャスト アドレスに定期的にアドバタイズメントを送信します。各デバイスは SNMP メッセージを受信できるアドレスを最低 1 つはアドバタイズします。アドバタイズメントには保持時間情報も含まれます。保持時間は、受信デバイスが CDP 情報を破棄するまでに保持する時間の長さを表します。アドバタイズメントまたはリフレッシュ タイマーおよびホールド タイマーを設定できます。

CDP Version 2 (CDPv2) では、接続デバイス間でネイティブ VLAN ID またはポート デュプレックス ステートが一致していないインスタンスを追跡できます。

CDP では、次の Type-Length-Value (TLV) フィールドがアドバタイズされます。

- Device ID
- Address
- Port ID
- Capabilities
- Version

- Platform
- Native VLAN
- Full/Half Duplex
- MTU
- SysName
- SysObjectID
- Management Address
- Physical Location

すべての CDP パケットに VLAN ID が含まれます。CDP パケットはタグなしです。したがって、パケットはネイティブ/アクセス VLAN 上で伝送され、その VLAN の情報もパケットに追加されます。

VLAN の詳細については、『Cisco Nexus 1000V Layer 2 Switching Configuration Guide, Release 4.0(4)SV1(3)』を参照してください。

ハイ アベイラビリティ

CDP ではステートレス リスタートがサポートされています。リブート後またはスーパーバイザ スイッチオーバー後に、実行コンフィギュレーションが適用されます。

注意事項および制約事項

CDP に関する設定時の注意事項および制約事項は、次のとおりです。

- 接続数が 256 のハブにポートを接続した場合、CDP はポートあたり最大 256 のネイバーを検出できます。
- インターフェイス上で CDP を設定するには、CDP がグローバルにイネーブルになっている必要があります。CDP は、デフォルトでグローバルにイネーブルになっていますが、「[CDP のグローバルなイネーブル化/ディセーブル化](#)」(P.2-3) の手順を使用してディセーブルにできます。
- CDP を設定できるのは、物理インターフェイスおよびポート チャネル上に限られます。

デフォルト

表 2-1 に、CDP のデフォルト設定を示します。

表 2-1 CDP のデフォルト

パラメータ	デフォルト
CDP	グローバルおよびすべてのインターフェイスでイネーブル
CDP version	バージョン 2
CDP device ID	システム名
CDP timer	60 秒
CDP hold timer	180 秒

CDP の設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「[CDP グローバル コンフィギュレーション](#)」 (P.2-3)
- 「[インターフェイス上での CDP のイネーブル化](#)」 (P.2-7)
- 「[インターフェイス上での CDP のディセーブル化](#)」 (P.2-8)

CDP グローバル コンフィギュレーション

ここでは、次の内容について説明します。

- 「[CDP のグローバルなイネーブル化/ディセーブル化](#)」 (P.2-3)
- 「[CDP バージョンのアダプタイズ](#)」 (P.2-4)
- 「[CDP オプションの設定](#)」 (P.2-5)

CDP のグローバルなイネーブル化/ディセーブル化

ここでは、CDP をグローバルにイネーブルまたはディセーブルにする手順を説明します。デフォルトでは CDP がグローバルにイネーブルになっていますが、ディセーブルにされたとしても、ここで説明する手順を実行すれば再度イネーブルにすることができます。

始める前に

この手順を開始する前に、次の点を理解または実行しておく必要があります。

- EXEC モードで CLI にログインします。
- インターフェイス上で CDP を設定するには、CDP がグローバルにイネーブルになっている必要があります。
- CDP 機能をグローバルにディセーブルにすると、すべての CDP コンフィギュレーションが削除されます。

手順の概要

1. `config t`
2. `[no] cdp enable`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>config t</code> 例： <code>n1000v# config t</code> <code>n1000v(config)#</code>	CLI グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンド	目的
ステップ 2	<pre>[no] cdp enable</pre> <p>例:</p> <pre>n1000v(config)# cdp enable</pre> <p>例:</p> <pre>n1000v(config)# no cdp enable</pre>	CDP 機能をグローバルにイネーブルまたはディセーブルにします。

CDP バージョンのアドバタイズ

ここでは、アドバタイズするデバイスの CDP バージョンを指定する手順を説明します。

始める前に

この手順を開始する前に、次の点を理解または実行しておく必要があります。

- デバイス上で現在サポートされている CDP のバージョンを知っている必要があります。
- 一度に 1 つの CDP バージョン（バージョン 1 またはバージョン 2）だけがスイッチ上のすべてのアップリンクおよびポート チャネルに対してアドバタイズされます。
- CDP の詳細については、「[CDP の概要](#)」(P.2-1) を参照してください。

手順の概要

1. `config t`
2. `cdp advertise {v1 | v2}`
3. (任意) `show cdp global`
4. (任意) `copy running-config startup-config`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	<pre>config t</pre> <p>例:</p> <pre>n1000v# config t n1000v(config)#</pre>	CLI グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<pre>cdp advertise {v1 v2}</pre> <p>例 1:</p> <pre>n1000v(config)# cdp advertise v1 n1000v(config)#</pre> <p>例 2:</p> <pre>n1000v(config)# cdp advertise v2 n1000v(config)#</pre>	アドバタイズする CDP バージョンを割り当てます。 <ul style="list-style-type: none"> • CDP バージョン 1 • CDP バージョン 2
ステップ 3	<pre>show cdp global</pre>	(任意) CDP コンフィギュレーションを表示します。他のデバイスにアドバタイズまたは送信されている CDP バージョンも表示されます。

コマンド	目的
<p>例 1:</p> <pre>n1000v(config)# show cdp global Global CDP information: CDP enabled globally Sending CDP packets every 60 seconds Sending a holdtime value of 180 seconds Sending CDPv2 advertisements is disabled Sending DeviceID TLV in Default Format</pre> <p>例 2:</p> <pre>n1000v(config)# show cdp global Global CDP information: CDP enabled globally Sending CDP packets every 60 seconds Sending a holdtime value of 180 seconds Sending CDPv2 advertisements is enabled Sending DeviceID TLV in Default Format</pre>	
<p>ステップ4</p> <pre>copy running-config startup-config</pre> <p>例:</p> <pre>n1000v(config)# copy running-config startup-config</pre>	<p>(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーし、リブートと再起動を行って、永久的に保存します。</p>

CDP オプションの設定

ここでは、CDP に関する次の設定を行う手順を説明します。

- 使用するデバイス ID 形式



(注) サポートされるデバイス ID 形式は **system-name** だけです。

- ネイバー情報の最大保持時間
- 送信アドバタイズメントのリフレッシュ タイム

始める前に

この手順を開始する前に、次の点を理解または実行しておく必要があります。

- アップストリーム cat6k スイッチからの出力を表示するには、**show cdp neighbor** コマンドを使用します。
- 保持時間を設定する場合は、CDP がネイバー情報を保持する時間を把握します。
- CDP タイマーを設定する場合は、CDP がアドバタイズする頻度を把握します。
- CDP の詳細については、「[CDP の概要](#)」(P.2-1) を参照してください。

手順の概要

1. **config t**
2. (任意) **cdp format device-id system-name**
3. **show cdp neighbors** アップストリーム デバイスから
4. **show cdp neighbors** 自デバイスから

5. (任意) **cdp timer** *seconds*
6. (任意) **cdp holdtime** *seconds*
7. (任意) **show cdp global**
8. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	config t 例: n1000v# config t n1000v(config)#	CLI グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	cdp format device-id system-name 例: n1000v(config)# cdp format device-id system-name n1000v(config)#	(任意) デバイス ID 形式としてシステム名を使用することを指定します。
ステップ3	show cdp neighbors 例: swordfish-6k-2#show cdp neighbors Capability Codes: R - Router, T - Trans Bridge, B - Source Route Bridge S - Switch, H - Host, I - IGMP, r - Repeater, P - Phone Device ID Local Infrfce Holdtme Capability Platform Port ID 02000c000000 Gig 1/16 14 S Soft Swit Eth 2/4 02000c000000 Gig 1/17 14 S Soft Swit Eth 2/5 02000c000000 Gig 1/14 14 S Soft Swit Eth 2/2 02000c000000 Gig 1/15 14 S Soft Swit Eth 2/3 02000c000000 Gig 1/18 13 S Soft Swit	アップストリーム デバイスから自デバイスを表示します。
ステップ4	show cdp neighbors n1000v(config)# show cdp neighbors Capability Codes: R - Router, T - Trans-Bridge, B - Source-Route-Bridge S - Switch, H - Host, I - IGMP, r - Repeater, V - VoIP-Phone, D - Remotely-Managed-Device, s - Supports-STP-Dispute Device ID Local Infrfce Hldtme Capability Platform Port ID swordfish-6k-2 Eth2/2 169 R S I WS-C6503-E Gig1/14 swordfish-6k-2 Eth2/3 139 R S I WS-C6503-E Gig1/15 swordfish-6k-2 Eth2/4 135 R S I WS-C6503-E Gig1/16 swordfish-6k-2 Eth2/5 177 R S I WS-C6503-E Gig1/17 swordfish-6k-2 Eth2/6 141 R S I WS-C6503-E Gig1/18	自デバイスからアップストリーム デバイスを表示します。
ステップ5	cdp holdtime <i>seconds</i> 例: n1000v(config)# cdp holdtime 10	(任意) CDP がネイバー情報を破棄するまでにそれを保持する最大時間を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 範囲は 10 ~ 255 秒です。 • デフォルト値は 180 秒です。

	コマンド	目的
ステップ6	<pre>cdp timer seconds</pre> <p>例:</p> <pre>n1000v(config)# cdp timer 5</pre>	(任意) CDP がネイバーにアドバタイズメントを送信するリフレッシュ タイムを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 範囲は 5 ~ 254 秒です。 • デフォルト値は 60 秒です。
ステップ7	<pre>show cdp global</pre> <p>例:</p> <pre>n1000v(config)# show cdp global Global CDP information: CDP enabled globally Sending CDP packets every 5 seconds Sending a holdtime value of 10 seconds Sending CDPv2 advertisements is disabled Sending DeviceID TLV in Mac Address Format</pre>	グローバル CDP コンフィギュレーションを表示します。
ステップ8	<pre>copy running-config startup-config</pre> <p>例:</p> <pre>n1000v(config-if)# copy running-config startup-config</pre>	(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーし、リブートと再起動を行って、永久的に保存します。

CDP インターフェイス コンフィギュレーション

ここでは、次の手順について説明します。

- 「[インターフェイス上での CDP のイネーブル化](#)」 (P.2-7)
- 「[インターフェイス上での CDP のディセーブル化](#)」 (P.2-8)

インターフェイス上での CDP のイネーブル化

特定のインターフェイス上で CDP をイネーブルにするには、ここに示す手順を実行します。デフォルトでは CDP がグローバルにイネーブルになっていますが、ディセーブルにされたとしても、ここで説明する手順を実行すれば再度イネーブルにすることができます。

始める前に

この手順を開始する前に、次の点を理解または実行しておく必要があります。

- CDP 機能をグローバルにイネーブルにします。CDP はデフォルトでグローバルにイネーブルになっていますが、再度イネーブルにするには「[CDP のグローバルなイネーブル化/ディセーブル化](#)」 (P.2-3) の手順を使用します。
- CDP の詳細については、「[CDP の概要](#)」 (P.2-1) を参照してください。

手順の概要

1. `config t`
2. `interface interface-type number`
3. `no cdp enable`
4. `cdp enable`

5. `show cdp interface interface-type number`

6. `copy running-config startup-config`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	<code>config t</code> 例: n1000v# <code>config t</code> n1000v(config)#	CLI グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>interface interface-type number</code> 例: n1000v(config)# <code>interface port-channel 2</code> n1000v(config-if)#	CLI を特定のインターフェイスに対するインターフェイス コンフィギュレーション モードにします。
ステップ3	<code>no cdp enable</code> 例: n1000v(config-if)# <code>no cdp enable</code>	このインターフェイスで CDP をディセーブルにします。
ステップ4	<code>cdp enable</code> 例: n1000v(config-if)# <code>cdp enable</code>	このインターフェイスで CDP をイネーブルにします。
ステップ5	<code>show cdp interface interface-type number</code> 例: n1000v(config-if)# <code>show cdp interface mgmt0</code> mgmt0 is up CDP disabled on interface Sending CDP packets every 60 seconds Holdtime is 180 seconds	(任意) 指定したインターフェイスの CDP 情報を表示します。
ステップ6	<code>copy running-config startup-config</code> 例: n1000v(config-if)# <code>copy running-config startup-config</code>	(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーし、リブートと再起動を行って、永久的に保存します。

ポート チャネル 2 で CDP をイネーブルにする例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# interface port-channel 2
n1000v(config-if)# no cdp enable
n1000v(config-if)# cdp enable
n1000v(config-if)# copy running-config startup-config
```

インターフェイス上での CDP のディセーブル化

特定のインターフェイス上で CDP をディセーブルにするには、ここに示す手順を実行します。

始める前に

この手順を開始する前に、次の点を理解または実行しておく必要があります。

- CDP がデバイス上で現在イネーブルになっていること。



(注) CDP がデバイス上でディセーブルになっている場合、すべてのインターフェイスでもディセーブルになっています。

- CDP が、設定対象のインターフェイスで現在イネーブルになっていること。
- CDP の詳細については、「[CDP の概要](#)」(P.2-1) を参照してください。

手順の概要

1. **config t**
2. **interface** *interface-type number*
3. **no cdp enable**
4. (任意) **show cdp interface** *interface-type number*
5. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	config t 例: n1000v# config t n1000v(config)#	CLI グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	interface <i>interface-type number</i> 例: n1000v(config)# interface mgmt0 n1000v(config-if)#	指定したインターフェイスに対する CLI インターフェイス コンフィギュレーション モードにします。
ステップ 3	no cdp enable 例: n1000v(config-if)# no cdp enable	指定したインターフェイス上で CDP をディセーブルにします。
ステップ 4	show cdp interface <i>interface-type number</i> 例: n1000v(config-if)# show cdp interface mgmt0	(任意) インターフェイスの CDP 情報を表示します。
ステップ 5	copy running-config startup-config 例: n1000v(config-if)# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーし、リブートと再起動を行って、永久的に保存します。

次に、mgmt0 上で CDP をディセーブルにする例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# interface mgmt0
n1000v(config-if)# no cdp enable
n1000v(config-if)# show cdp interface mgmt0
mgmt0 is up
    CDP disabled on interface
    Sending CDP packets every 60 seconds
    Holdtime is 180 seconds
n1000v(config-if)# copy running-config startup-config
```

CDP のモニタリング

CDP トラフィックをモニタするには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>show cdp traffic interface interface-type slot/port</code>	インターフェイスの CDP トラフィック 統計を表示します。 例 2-7 (P.2-14) を参照してください。

CDP 統計情報の消去

CDP 統計情報を消去するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>clear cdp counters</code>	すべてのインターフェイスの CDP 統計情報を消去します。
<code>clear cdp counters interface number</code>	指定したインターフェイスの CDP 統計情報を消去します。
<code>clear cdp table</code>	1 つまたはすべてのインターフェイスの CDP キャッシュを消去します。

CDP コンフィギュレーションの確認

CDP コンフィギュレーションを確認するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>show cdp all</code>	CDP がイネーブルになっているすべてのインターフェイスを表示します。 例 2-1 (P.2-11) を参照してください。
<code>show cdp entry {all name entry-name}</code>	CDP データベース エントリを表示します。 例 2-2 (P.2-11) を参照してください。

コマンド	目的
show cdp global	CDP グローバル パラメータを表示します。 例 2-4 (P.2-13) を参照してください。
show cdp interface <i>interface-type slot/port</i>	CDP インターフェイスのステータスを表示します。 例 2-5 (P.2-13) を参照してください。
show cdp neighbors {detail interface <i>interface-type slot/port</i>}	CDP ネイバーのステータスを表示します。 例 2-6 (P.2-13) を参照してください。

例 2-1 show cdp all

```
n1000v# show cdp all
Ethernet2/2 is up
  CDP enabled on interface
  Sending CDP packets every 60 seconds
  Holdtime is 180 seconds
Ethernet2/3 is up
  CDP enabled on interface
  Sending CDP packets every 60 seconds
  Holdtime is 180 seconds
Ethernet2/4 is up
  CDP enabled on interface
  Sending CDP packets every 60 seconds
  Holdtime is 180 seconds
Ethernet2/5 is up
  CDP enabled on interface
  Sending CDP packets every 60 seconds
  Holdtime is 180 seconds
Ethernet2/6 is up
  CDP enabled on interface
  Sending CDP packets every 60 seconds
  Holdtime is 180 seconds
mgmt0 is up
  CDP enabled on interface
  Sending CDP packets every 60 seconds
  Holdtime is 180 seconds
```

例 2-2 show cdp entry name

```
n1000v# show cdp entry name swordfish-6k-2
-----
Device ID:swordfish-6k-2
System Name:
Interface address(es):
  IPv4 Address: 172.28.30.2
Platform: cisco WS-C6503-E, Capabilities: Router Switch IGMP Filtering
Interface: Ethernet2/2, Port ID (outgoing port): GigabitEthernet1/14
Holdtime: 152 sec

Version:
Cisco IOS Software, s72033_rp Software (s72033_rp-IPBASE-M), Version 12.2(33)SXH2a,
RELEASE SOFTWARE (fc2)
Technical Support: http://www.cisco.com/techsupport
Copyright (c) 1986-2008 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Fri 25-Apr-08 09:11 by prod_rel_team
```

例 2-3 show cdp entry all

```
n1000v# show cdp entry all
-----
Device ID:swordfish-6k-2
System Name:
Interface address(es):
  IPv4 Address: 172.28.30.2
Platform: cisco WS-C6503-E, Capabilities: Router Switch IGMP Filtering
Interface: Ethernet2/2, Port ID (outgoing port): GigabitEthernet1/14
Holdtime: 140 sec

Version:
Cisco IOS Software, s72033_rp Software (s72033_rp-IPBASE-M), Version 12.2(33)SXH2a,
RELEASE SOFTWARE (fc2)
Technical Support: http://www.cisco.com/techsupport
Copyright (c) 1986-2008 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Fri 25-Apr-08 09:11 by prod_rel_team

Advertisement Version: 1

-----
Device ID:swordfish-6k-2
System Name:
Interface address(es):
  IPv4 Address: 172.28.30.2
Platform: cisco WS-C6503-E, Capabilities: Router Switch IGMP Filtering
Interface: Ethernet2/3, Port ID (outgoing port): GigabitEthernet1/15
Holdtime: 129 sec

Version:
Cisco IOS Software, s72033_rp Software (s72033_rp-IPBASE-M), Version 12.2(33)SXH2a,
RELEASE SOFTWARE (fc2)
Technical Support: http://www.cisco.com/techsupport
Copyright (c) 1986-2008 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Fri 25-Apr-08 09:11 by prod_rel_team

Advertisement Version: 1

-----
Device ID:swordfish-6k-2
System Name:
Interface address(es):
  IPv4 Address: 7.7.8.1
Platform: cisco WS-C6503-E, Capabilities: Router Switch IGMP Filtering
Interface: Ethernet2/4, Port ID (outgoing port): GigabitEthernet1/16
Holdtime: 154 sec

Version:
Cisco IOS Software, s72033_rp Software (s72033_rp-IPBASE-M), Version 12.2(33)SXH2a,
RELEASE SOFTWARE (fc2)
Technical Support: http://www.cisco.com/techsupport
Copyright (c) 1986-2008 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Fri 25-Apr-08 09:11 by prod_rel_team

Advertisement Version: 1

-----
Device ID:swordfish-6k-2
System Name:
Interface address(es):
  IPv4 Address: 7.7.8.1
Platform: cisco WS-C6503-E, Capabilities: Router Switch IGMP Filtering
```

```

Interface: Ethernet2/5, Port ID (outgoing port): GigabitEthernet1/17
Holdtime: 156 sec

Version:
Cisco IOS Software, s72033_rp Software (s72033_rp-IPBASE-M), Version 12.2(33)SXH2a,
RELEASE SOFTWARE (fc2)
Technical Support: http://www.cisco.com/techsupport
Copyright (c) 1986-2008 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Fri 25-Apr-08 09:11 by prod_rel_team

Advertisement Version: 1

-----
Device ID:swordfish-6k-2
System Name:
Interface address(es):
  IPv4 Address: 172.28.15.229
Platform: cisco WS-C6503-E, Capabilities: Router Switch IGMP Filtering
Interface: Ethernet2/6, Port ID (outgoing port): GigabitEthernet1/18
Holdtime: 171 sec

Version:
Cisco IOS Software, s72033_rp Software (s72033_rp-IPBASE-M), Version 12.2(33)SXH2a,
RELEASE SOFTWARE (fc2)
Technical Support: http://www.cisco.com/techsupport
Copyright (c) 1986-2008 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Fri 25-Apr-08 09:11 by prod_rel_team

Advertisement Version: 1

```

例 2-4 show cdp global

```

n1000v(config)# show cdp global
Global CDP information:
  CDP enabled globally
  Sending CDP packets every 60 seconds
  Sending a holdtime value of 180 seconds
  Sending CDPv2 advertisements is disabled
  Sending DeviceID TLV in Default Format

```

例 2-5 show cdp interface

```

n1000v(config)# show cdp interface ethernet 2/3
Ethernet2/3 is up
  CDP enabled on interface
  Sending CDP packets every 60 seconds
  Holdtime is 180 seconds

```

例 2-6 show cdp neighbors interface

```

n1000v(config)# show cdp neighbors interface ethernet 2/3
Capability Codes: R - Router, T - Trans-Bridge, B - Source-Route-Bridge
                  S - Switch, H - Host, I - IGMP, r - Repeater,
                  V - VoIP-Phone, D - Remotely-Managed-Device,
                  s - Supports-STP-Dispute

```

```

Device ID          Local Intrfce  Hldtme  Capability  Platform  Port ID

```

```

swordfish-6k-2          Eth2/3          173          R S I          WS-C6503-E          Gig1/15

```

例 2-7 show cdp traffic interface

```

n1000v(config)# show cdp traffic interface ethernet 2/3
-----
Traffic Statistics for Ethernet2/3
Input Statistics:
  Total Packets: 98
  Valid CDP Packets: 49
    CDP v1 Packets: 49
    CDP v2 Packets: 0
  Invalid CDP Packets: 49
    Unsupported Version: 49
    Checksum Errors: 0
    Malformed Packets: 0

Output Statistics:
  Total Packets: 47
    CDP v1 Packets: 47
    CDP v2 Packets: 0
  Send Errors: 0

```

CDP の設定例

CDP 機能をイネーブルにして、リフレッシュ タイマーおよびホールド タイマーを設定する例を示します。

```

config t
cdp enable
cdp timer 50
cdp holdtime 100

```

その他の関連資料

ここでは、CDP に関する次の追加情報について説明します。

- 「[関連資料](#)」 (P.2-14)
- 「[標準規格](#)」 (P.2-15)

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
VLAN	『Cisco Nexus 1000V Layer 2 Switching Configuration Guide, Release 4.0(4)SV1(3)』
詳細なコマンド構文、コマンド モード、コマンド履歴、デフォルト、使用上の注意事項、例	『Cisco Nexus 1000V Command Reference, Release 4.0(4)SV1(3)』

標準規格

標準規格	タイトル
この機能でサポートされる新規または改訂された標準規格はありません。また、この機能による既存の標準規格サポートの変更はありません。	—

CDP 機能の履歴

ここでは、CDP 機能のリリース履歴を示します。

機能名	リリース	機能情報
CDP	4.0(4)SV1(1)	この機能が追加されました。

